

ACT NEWS

エー・シー・ティール ニュース

こんにちは！ACTニュース編集部です。三寒四温などと言いますが、少しずつ春の近付きを感じるようになってきましたね。このACT NEWSは、湯河原町の小学校・中学校で実施されているACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）という活動を保護者の方や町の方にも知ってもらうための新聞です。それでは中学校での9月から2月までのACTを振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第17号 2025年3月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

ACTってなーに？

アメリカの哲学者であり、教育学者でもあるジョン・デューイは「人間は経験を通じて学ぶ」という経験主義の考え方を提唱しました。

彼は「個人が経験を通じて学ぶことができるのは、その経験が個人にとって意味のあるものである場合に限られる」と考えました。つまり、人間は経験を通じて自分自身を成長させることができ、その成長は意味のある経験を通じて生まれるということです。

ACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）も同様に、生徒一人ひとりが自らの体験を通じて学ぶことを目的としています。自分自身を表現することを通じて、自分や他人との関係性を深めたり、違いを尊重し合えたりすることができる場です。

また、具体的な創作活動を通じて、生徒一人ひとりが自分自身の内面を見つめ直し、その結果、自分自身を深く理解し、自分と他人との関係性を改善していくためのヒントにあふれています。

現代社会において、コミュニケーション能力は家庭や地域、学校などさまざまな場面で必要とされる重要なスキルの1つです。これは人間関係を円滑にするだけでなく、自己理解にも必要不可欠と言えるでしょう。

ACTを通じて、生徒は自己理解や他者理解を深め、コミュニケーションの方法を身につけ、より豊かな人間関係や生き方を実現できる礎を育てることができます。座学では得られないことを、実際の体験を通じて学ぶことができます。

ACTでは創作やロールプレイ、グループワーク、ペアワークなどを通じて、コミュニケーションについてアートフルに学ぶことができます。また、振り返りの時間を設けており、生徒が感想を書くことで、より深い学びを得ることができます。

私たちはアートコミュニケーション教育を通じて、子どもたちがより豊かな人間関係や生き方を実現できることを目指しています。

「ダンボールハウスをつくろう」

ACTの集大成とも言える、大盛り上がりのアクティビティ。通称、湯フェス！湯河原町の皆様のご協力で集まった、たくさんのダンボールを使ってクラスで1つの家を作ります。事前の話し合いも、設計図も、役割分担もない、まさにぶっつけ本番。その分いろんなやりとりが展開するエネルギッシュな時間です。

感想には「最後のACTで楽しかったし、みんなの絆が深まった」「普段はあまり話さない子とも話せて仲良くなれてよかった」「ひとりでは思いつかない発想もたくさんの人がいればいろんなアイデアが思いついてすごいものが作れた」「ACTの5年間で学んだ柔らかい発想をどこかで使っていきたいと思った」「みんなで協力してダンボールハウスができた時は達成感と協力した感じあって、とても楽しかったし、みんなの関係が深まった思う」「最後の取り壊しも少し悲しくなったけど、楽しくできた」



2024年9月27日に3年生のみなさんと。

「何も話し合わない状態からのスタートでクラスみんなで作るの、みんな考えていることが違うし、すれ違ってたいへんだったけど、やっていくうちにゴールが見えてきて面白かった」などなど、クラスメイトとの共同作業に達成感を感じている感想が多くありました。

「からだから感じる」

2年生2回目は身体（からだ）をめぐるアクティビティ。「ふれる」をテーマに今年もダンサーの上村なおかさんで行いました。ここでは全身を使って接触する感覚を確かめるように進んでいきます。

私たちは普段、自分の意思で身体を動かしていること、全身で感じながら過ごしていることをつつい忘れて生活しています。このACTではそのことを再確認するワークを意識的に行なって、触れてみたりしながら、思い出してみます。それによって「わたし」や「あなた」という個々の存在。そして「わたしとあなた」という関係性が再発見され、「わたしたち」の身体が離れたその時に、なんとも不思議な「切なさ」を感じてもらいました。

生徒たちの感想には「無意識に人は身体を支え合っているのが不思議だった」「確かに身体はどうやって動いているか？なんて思ったことがないので、そのことを考えさせられた」



2024年10月16日に2年生のみなさんと。

「いつも当たり前にかかしている身体だけど、目を閉じて自分と向き合うとバランスなどを考えて動いてくれていたことに気づけた」「バランスは不安定でしたが、それがとても楽しくてまたやりたいと思った」「自由に身体を動かすことは当たり前じゃないことを実感した」「リラックスできた」などが書かれていました。

「ふちどって！」



2024年11月22日に1年生のみなさんと。

1年生の2回目はひとりで黙々と作業を進めるソロワーク。内容はタイトルの通り、ある図形をオイルパステルでひたすらふちどっていただけなのですが、けっこう疲れます。最後は、全員の作品を黒板に並べて鑑賞。同じ形をただふちどるだけの作業なのに、仕上がったものはてんでバラバラ。

その同じような絵は1つもない、バラバラ具合を視覚的に体感してもらいました。

ACTを通じていつも伝えているのは「個性を尊重する」です。「個性というのは一人ひとりの『違い』そのもの。作品を見てわかるように、どれが上手いとか下手とかはありません。ただ違うというだけ。その『違い=個性』は本人を活かす時もあるけど、時には本人を苦しめることだってあるのです。本人が望もうが望むまいがあるのが『個性』。だからこそ、自分や他人の『個性』を丁寧に、大切に扱う必要があるのです」という話をします。

生徒たちからは「最初は変な色合いだなんて思ったけど、だんだんこれも自分の個性って思えるようになって満足した」「自分が好きな色で描いて、他人と被らないってことに驚いた」「他人の作品も素敵だけど、自分の作品も認めて優しくしていきたいな！」などなどの感想。

「対話ってなんだろう」



2025年2月7日に1年生のみなさんと。

1年生3回目は、2人1組になってロールプレイで対話をします。まず、AさんとBさん、それぞれの役割を伝えますが、お互いに相手の役割は知らされずに対話が始まります。

1つめのワークでは、「相手の話を奪う／自分の話を奪われる」という場面を意図的につくります。

2つめのワークでは立場を逆転。話し手は「話を聴いて欲しいだけ」かも知れないのに、聴き手がアドバイスをしてしまう場面を意図的につくります。

最後に「対話という場面では話す側の伝え方以上に、聴く側の姿勢や態度、つまり『在り方』によって、その場の価値や意味が決まるんだよ」という話をしました。

生徒たちの感想は「今回は役として演じていたけど、実際にやったら嫌われるかもしれないので相手のことも考えたい」「ロールプレイをやってみて日常生活でやっていないか、不安になった」「LINEでしか長いやりとりはしたことがなかったので、今日は初めて人とこんなに長く話せて楽しかった」「対話でも会話でも自分から割り込んだりしないでしっかりと相手の話を聞いてから、自分の話をすることが大切だということがわかった」などなど。

「仮説と仮設～ペーパータワーをたてよう」

2年生最後のアクティビティは、毎年恒例の「ペーパータワー」です。グループごとに決められた枚数のA4コピー用紙だけを使って構造物を作って、その高さを競います。折ったり切ったりするのはもちろんOKですが、あくまで紙のみで建設します。目標は190cm！こうすれば立つんじゃないか？と仮説を立て、仮設し、崩れたらまた仮説…仮設…とカセットをひたすら繰り返すトライ・アンド・エラー（とりあえずやってみて、ダメならまた考えてやりなおそう）の時間です。



2025年2月12日に2年生のみなさんと。

生徒たちからは「自分たちで失敗しながら、いろいろなことを試していくことで少しずつ高くしていくことができた」「班それぞれに個性が出ていて面白かった」「今日、全力でやってみた」「みんなで協力できて楽しかった」「紙だけで190cmなんて無理だと思ってたけど、仮説と仮設を使うことで意外とできた」「アンバランスで計画性がなくても班の人たちの協力のおかげで奇跡が起きた！」「自分たちの知識や

や考え、ひらめきが試された感じがして楽しかった」「バランスというのは色んな意味で難しい」「仮説は考えられても、実際にやってみてできないことの方が多いんだよなーと思った」「アイデア力、集中力、安定したものを作る技術力など、たくさんの力が必要でとても難しく、やりがいがあった」など、協働の楽しさを感じたようでした。

「ダンボールハウス mini」

8組の3回目は「ダンボールハウス mini」を実施しました。3年生のACTと同様に事前の話し合いも、設計図も、役割分担もない、共同作業。一人ひとりが自分のアイデアや思いを形にしていきながら、それらが小さく集まって、少しだけ大きくなっていきます。またそれが集まってを繰り返し、やがては大きな「小屋」になっていきます。



2025年2月14日に8組のみなさんと。

思うに「わたし」は「あなた」や「みんな」と相互作用しながら生きています。言い換えるならば「わたし」は「状況」の中で生きるとも言えます。そして「状況」が変わるにつれて「わたし」の経験世界も変わっていきます。「わたし」はそのような「状況」の中で、常に再構成されていくのです。これを成長と呼びたいと思います。

生徒が「状況」の変化に対応し、それによって自分なりに少しずつでも良いので「成長」できるような時間をつくること。それもACTの目標なのです。

それではまた次号でお会いしましょう！